

平成30年度地盤工学会関西支部 支部賞審査結果

	受賞者	受賞候補者所属	業績名	受賞理由
社会貢献賞	楠見 晴重	関西大学	京都盆地における地下水適正利用および保全に関する理解・啓発活動	本業績は、京都盆地における地下水の賦存量が200億トンを上回る量であり琵琶湖に匹敵するものであることを明らかにするとともに、地下水の適正利用や保全をはかるため、京都盆地の3次元可視化や多くの市民向け講演会を実施したものである。これら一連の活動によって、地下水文化の理解と地下水適正利用の普及に大きく貢献したと判断された。以上の理由により、社会貢献賞にふさわしいと評価された。
学術奨励賞	伊藤 真一	鹿児島大学工学部	安国寺裏斜面におけるデータ同化結果を活用した斜面崩壊に対する危険基準の提案	本業績は、綾部市安国寺裏斜面の現地計測データを用いてデータ同化による浸透解析モデルを構築し、斜面崩壊に対する危険基準の提案を試みたものである。現地計測データに基づいた現実的なモデルパラメータの設定が可能となりうることや、様々な斜面への応用可能性を秘めていること等が評価された。なお、本業績の一部は関西支部「斜面動態モニタリングに基づく斜面安定性評価研究委員会」において活用展開されている。以上の理由により、学術奨励賞としてふさわしいと評価された。
地盤技術賞	深井 晴夫 永井 久徳 大島 昭彦	基礎地盤コンサルタンツ 鴻池組 大阪市立大学大学院工学研究科	液状化試験と各指針による強度の比較	本業績は、全国各地で採取した乱れの少ない試料で実施した、繰返し三軸試験と繰返し中空ねじり試験により評価される液状化強度の違いを比較するとともに、道路橋示方書等指針による液状化強度比の推定値と比較したものである。多くの試験結果を踏まえて新しい事実を見出したことは、現時点で十分な有益性を有する知見であるとともに、今後の液状化強度の評価の新たな展開につながる地盤技術開発であると考えられることより、地盤技術賞としてふさわしいと評価された。